綱領

一、本組合ハ向上、協力、生産ノ三大主義ヲ精神トス

二、本組合ハ産業ノ發達ト勞働者ノ向上ヲ期スルノ目的ニ於テ政府ヲシテ適當ナル政策ヲ行ハシメ、資本家ニ對シテハ其理解ヲ求メ、一般勞働者ニ向ツテ其自覺ヲ促ス

三、本組合ハ絶ヘス經濟界ノ趨勢ヲ考究シ勞働者ノ利益ヲ擁護増進スルノ方策ヲ立ツ

四、本組合ハ産業組織ヲ破壞スル如キ矯激ノ言行ヲ成メ其思想ノ侵入ヲ防禦ス

大正九年十月改定

日本勞働組合

聲名

組合長　裄富　太郎

一、精神上にも物質上にも勞働者の向上は生産が本である、生産は働きより生まるゝ、働かずして向上を希望することは絶對的不可能である、向上を希望せんとせば生産、生産を希望せんとせば働く、之れが勞働者の原則である、若し之れに反して生産に伴はずして滿足を求むる之れは破壞である、破壞は向上の道にあらずして勞働者の自滅である、同時に國家産業の破滅である。

二、資本主の得べき收得も生産を本とした報酬でなくてはならぬ、生産を顧みずして單に時目の勝負に利を貪らんとするのは經濟界を破るべき賊子と云つてよろしい、報酬の増大を得んと欲せば生産を増大にする、生産を増大にせんとせば勞働を尊重し擁護せねばならぬ、勞働者の擁護は即ち資本の擁護であつて爰に勞資一體の理が明かになる、此理解が資本主に無かつたなれば勞働者は其資本主に服從はしない、若し夫れ甚だしくも資本主が勞働者を虐待するなどの事あるに於ては即ち資本主の自滅であつて又大國家産業の破滅と知らねばならぬ。

三、勞働の本質は他の職業であらねばならぬ、政治の叫び（政治運動）は決して勞働者の本領でないのみならず勞働者の政治運動は勢ひ途に共産破壞の主張に走らずには居らぬ、勞働運動の區別に付きて歐米は十分に理解して居るが日本人には夫れが乏しい、お互に除程注意しなければならぬ、若し此區別を理解せざるに於ては勞働者は常に政黨の驥尾に隨ひ自己の本領たる職業を抛つて奔命に疲れ忽ち自滅するのである、勞働黨と勞働組合とは全然別物で主義も主張も明かに區別せねばならぬ。

四、本組合は自覺を以て本體とす。又た過激でなく穩便でソシテ職に忠實でなくてはならぬ、職に忠實とは資本主に忠實なるにあらずして自己に忠實なるのである、過激と粗暴と職に不忠實は勞働者の自殺である、本組合は飽迄之れを排斥する。ソシテ自覺したる勞働者に對しては何處までも共濟の方法を立てゝ組合員の苦痛を除去する考へである。

日本労働組合　沿革、組織

本組合ハ大正八年六月創立七月二十七日ニ八幡軒野ノ名士実業家ヲ招キ発起会ヲ新ニ招待シ組合幹部七十四名ト懇談会ヲ開催セ

八月二八理事五名本組合趣意宣言ノ三項ヲ以テ発会式ヲ開キ盛況ナリ成功シ京都日本労働総会会ヲ設置シ大阪ニハ日本労働組合関西本部ヲ本部ヲ設立セリ

九月十六日ニ支部増募ニ并東会員大会ヲ開催会ヲ開催セリ

国際労働会議ニ派遣スル労働者代表選定協会ニ農商務省ニ届カシメタル時本組合モ参